

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成25年第Ⅳ四半期（10月～12月）

設備投資：わずかに減少

採算状況：3期ぶりに比較的大きく改善

資金繰り：緩やかに改善

雇用人員：全業種・全規模で「不足」感が強まる

## 《 概要 》

### □設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期に設備投資を「実施した」割合は17.9%と、前期の18.3%からわずかに減少した。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.9%と、再び増加する見通しとなっている。

### □採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲9.0（前期▲15.0）と6.0ポイント上昇し、3期ぶりに比較的大きく改善した。

### □資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲21.8（前期▲23.6）と1.8ポイント改善した。

### □雇用人員

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、9.2（前期5.8）と3.4ポイント上昇し、2期連続で「不足」感が強まった。

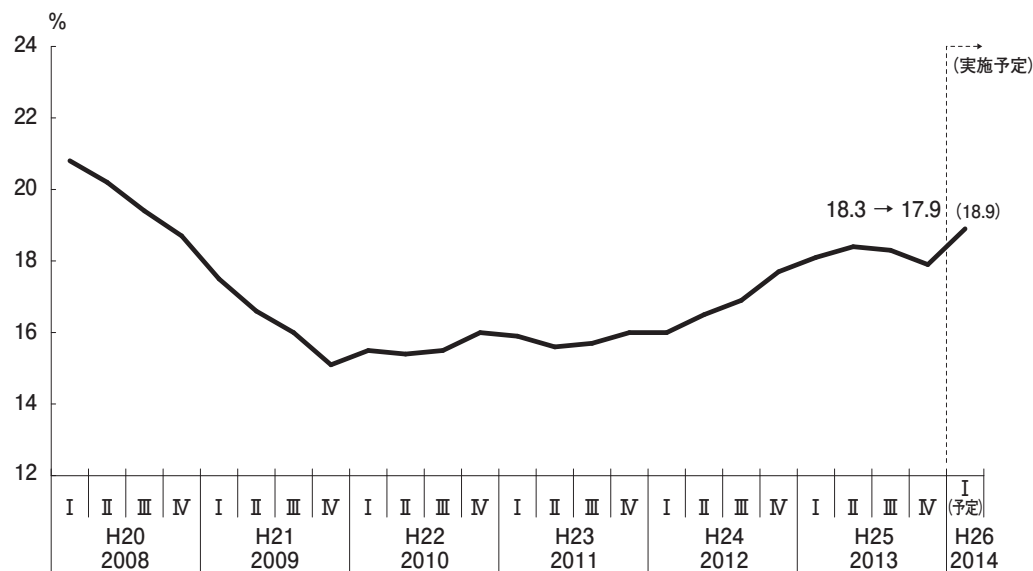
全業種・全規模でDI値が上昇し、「不足」が「過剰」を上回っている。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成25年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は17.9%と、前期（平成25年7～9月）の18.3%からわずかに減少した。

来期（平成26年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.9%と、再び増加する見通しとなっている。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－

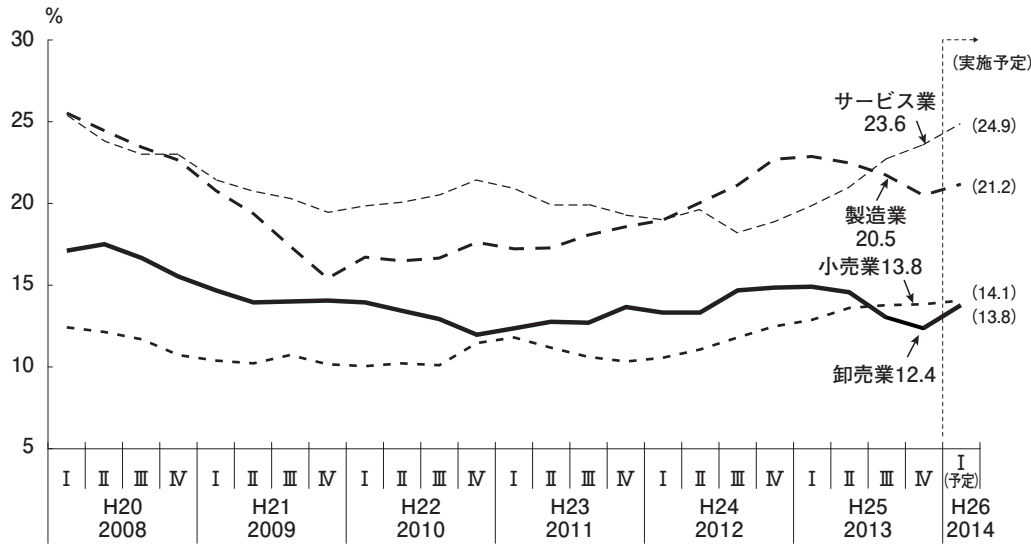


注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

業種別に見ると、設備投資を「実施した」割合は、製造業20.5%（前期21.8%）と卸売業12.4%（同13.1%）がともに3期連続で減少し、慎重な姿勢が続いている。小売業13.8%（同13.8%）は横ばいで推移し、7期連続の回復傾向が一服した。一方、サービス業23.6%（同22.8%）は5期連続で増加し、順調な回復を見せている。

なお、来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、卸売業が13.8%、サービス業が24.9%など、全業種で増加を見込んでいる。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

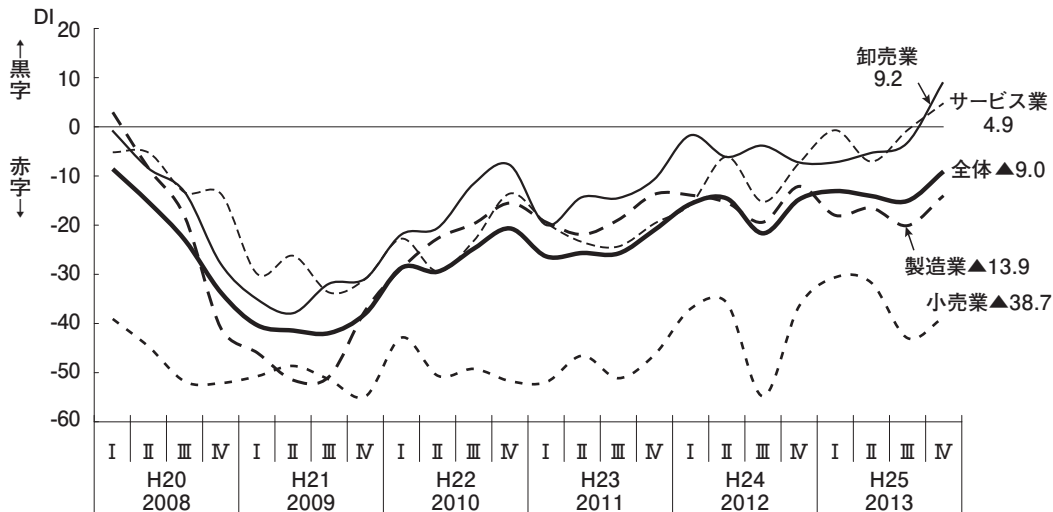


注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

### ■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲9.0（前期▲15.0）と6.0ポイント上昇し、3期ぶりに比較的大きく改善した。

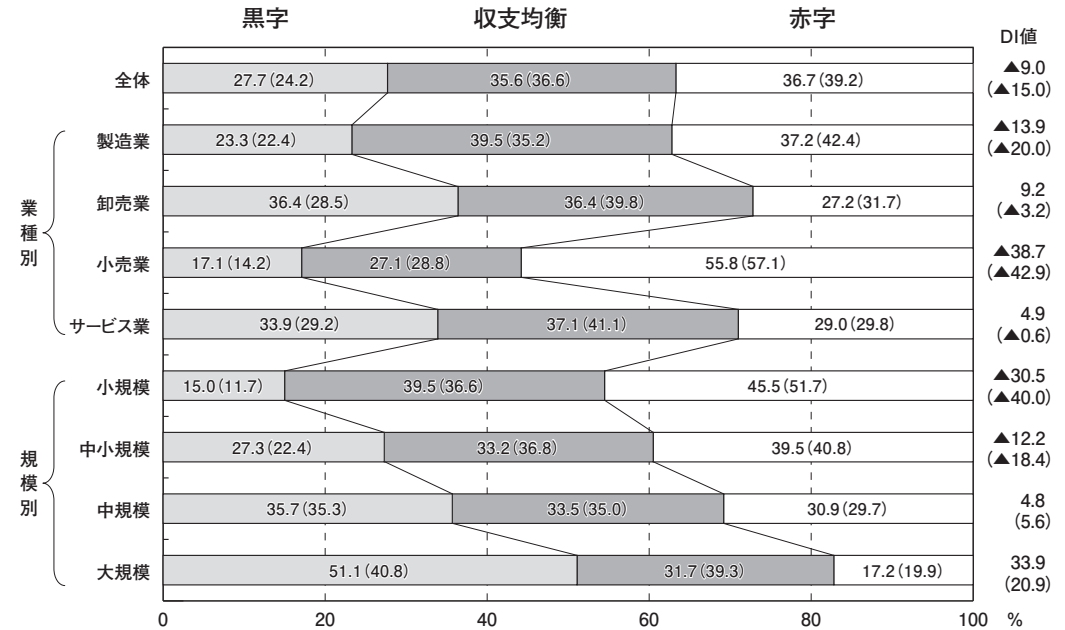
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、全業種で採算DIが改善した。特に卸売業9.2（前期▲3.2）は12.4ポイントと大幅に改善し、6年ぶりにDI値がプラスに転じた。また、サービス業4.9（同▲0.6）も2期連続の改善で6年半ぶりにDI値がプラスとなった。

規模別にみると、大規模では黒字企業が半数を超え、採算DIが33.9（同20.9）と13.0ポイントの改善となった。小規模▲30.5（同▲40.0）と中小規模▲12.2（同▲18.4）もともに改善した。一方、前期大幅に改善した中規模4.8（同5.6）のみ、わずかにDI値が低下した。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



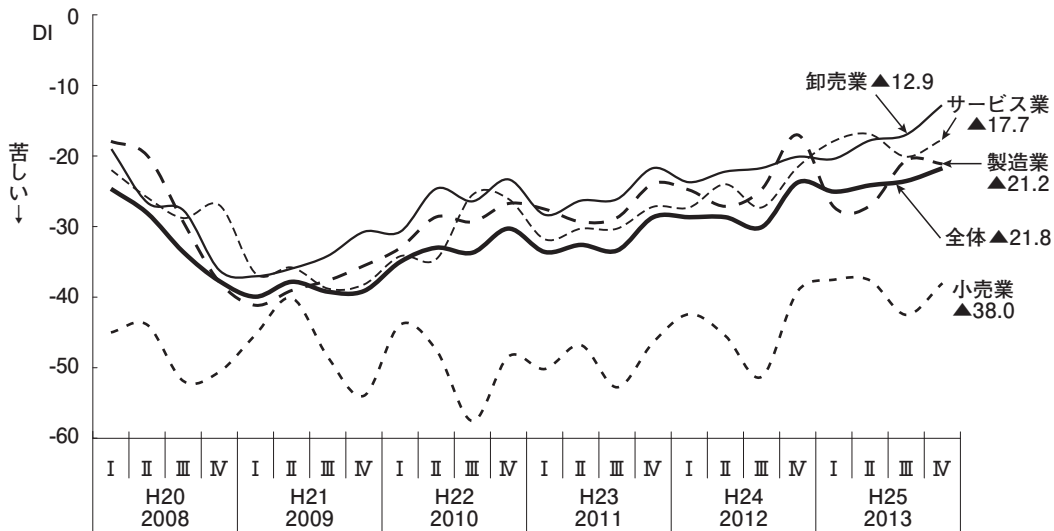
注) カッコ内は前期（平成25年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

### ■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲21.8（前期▲23.6）と1.8ポイント改善した。平成25年第II四半期から緩やかな改善傾向にある。

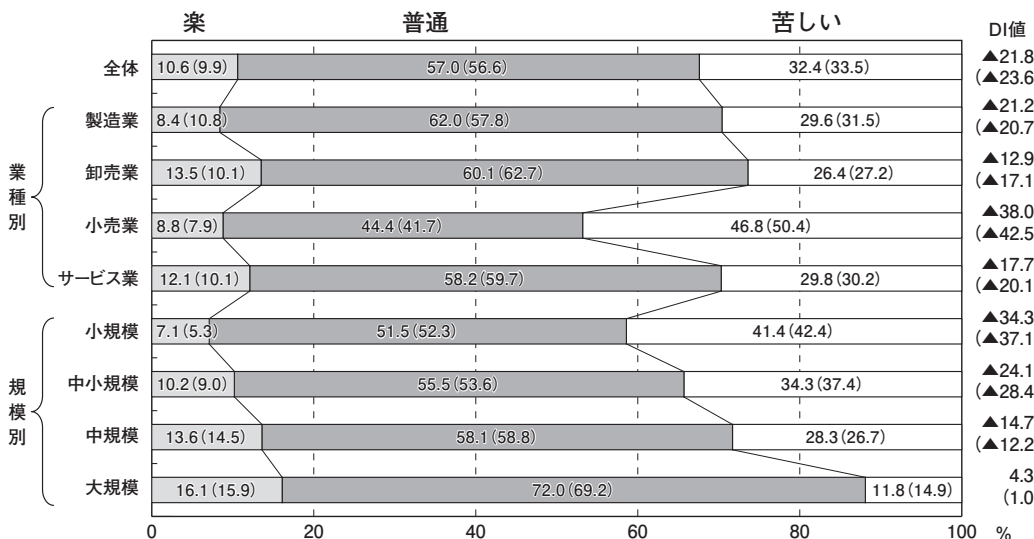
業種別にみると、卸売業▲12.9（同▲17.1）が3期連続で改善したほか、小売業▲38.0（同▲42.5）とサービス業▲17.7（同▲20.1）は前期の悪化から戻す動きとなった。製造業▲21.2（同▲20.7）のみわずかに悪化した。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、資金繰りDIは中規模▲14.7（前期▲12.2）のみ2.5ポイントの悪化となった。他の規模は改善し、大規模4.3（同1.0）は3期連続でDI値がプラスとなっている。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

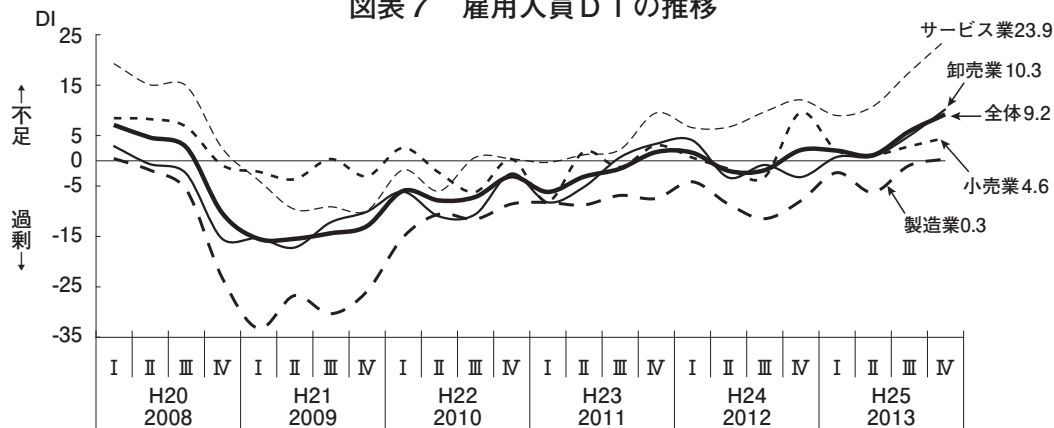


注) カッコ内は前期（平成25年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、9.2（前期5.8）と3.4ポイント上昇し、2期連続で「不足」感が強まった。

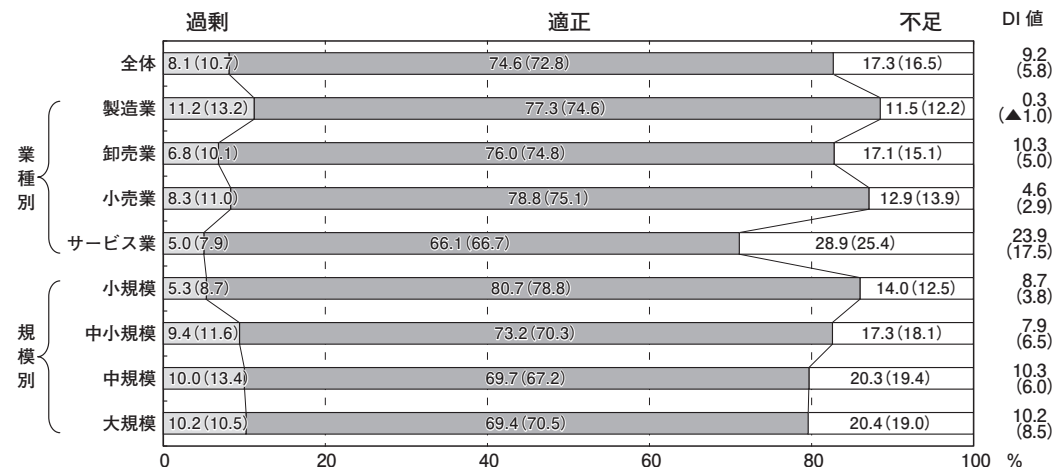
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、全業種でDI値が上昇した。特にサービス業23.9（前期17.5）は6.4ポイントと大きく上昇、「不足」感を強めている。前期唯一DI値がマイナスだった製造業0.3（同▲1.0）もプラスに転じ、全業種で「不足」が「過剰」を上回った。

規模別にみても、全規模でDI値が上昇し、「不足」感を強めた。特に小規模8.7（同3.8）と中規模10.3（同6.0）でDI値の上昇幅が大きくなっている。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) カッコ内は前期（平成25年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。